

アリス九號.

BAND-ON-THE-RISE!

1月14日、アリス九號.にとって3枚目となるアルバム『VANDALIZE』がリリースされる。そこにはメンバー5人が好きな音楽、やりたい音楽が純粹に詰め込まれており、アリス九號.として非常に密度の濃い仕方がりとなった。さらに、タイトルの“破壊する”という意味が象徴するように新たな試みもあって、まさに彼らなりのロック・アルバムが完成したと言えるだろう。それだけに、メンバー個々の思いにも相当深いものがあるようだ。

というわけで、今回はそんな思いを掘り下げるインタビューをお届けしよう。

ついに完成かんせいしましたね、『VANDALIZE』
が！ 個人的こじんてきな感想かんそうとしては、まるでス
ウェーデンのサウナのようなー。

沙我：どういう意味いみですか（笑）
北欧ほくおうサウナって、普通ふつうにサウナで汗あせをか
いたあと、マイナス十何度じゅうなんどっていう外気がいき
にあったりするじゃないですか。それ
ぐらい緩急かんきゅう激しい楽曲がきょくが入はいっているな
と。

虎：ああ！（笑）
いつからスタジオはいに入はいってたんですか？

虎：もう常つねにでしたね。
ヒロト：曲きょくによっては去年きょねんから作つくって
ました。

ということは、アルバムこうぼきょくの候補こうぼきょく曲つって
相当そうとうの数かずだったんじゃないですか？

沙我：ブログで、今までいま作つくってきた70
曲きょくの中なかで……みたいなことかを書かいたら、
このアルバムきょくのために70曲か書かいたって
勘違かんちがいするファンひとの人ひとがいたんですよ。

それで“すごいですね、今回こんかいは！”って
コメントちがくれたんですけど、それは違ちがう
んで（苦笑くしやう）

いずれにしても、いつもよりきょくたくさん
曲あが上あがったわけでしょ？ そこから
どういきじゆんう基準きじゆんでアルバム用ようの曲きょくを選えら
んだんですか？

虎：まず、アルバムつくを作つくろうと思おもった時とき
に「the beautiful name」ってきょくいう曲きょく

があったんだよね？ 沙我君くん！
沙我：そうですね、ありました（笑）

虎：で、この曲きょくが出来できた時ときに、これは
1曲目きょくめにもっていきたいって話はなしになっ
て、そこからの流れながで曲きょくを決きめていっ
た……みたいな。

将：もともとは“これがいい、あれが
いい”ってメンバーどうし同士もで持よち寄よっていた
ものがあさいごったんですけど、最後さいごの最後さいごに
「the beautiful name」がで出てきたんで
す。それが流れながの決きめ手てになりました。

確かに1曲目たし、いいですもんね。

虎：ビビりますよね。こんな曲きょく持もって
きたら。

スケールおおの大きかんさを感じかんじますよ。

沙我：最初さいしよはライブひょうげんで表ひな現なしやすいいア
ルバムにしようって話はなししてたんで、それ
とは真逆まさかじゃないですか。ただ、この1
曲目きょくめを聴きいたら絶対ぜったいにみんなわかく
れるはずだと思おもって。

ズバリ、わかおもってくれたわけおもですね。

沙我：はい。このアルバムぜんたいって、全体的き
にすおもごくポおもップで、決けつして誰だれに対たいしても
聴ききやすおもいアルバムおもじゃないと思おもうんで
す。でも、アルバムひょうげんをライブひょうげんで表ひな
現なしたら、聴きく人ひとは絶対ぜったいにすおおごく大そんざい
きな存在おもの中なかのひようそとつおもの要素ようそになれおもると思おもうんで。
とにかおおくひとのひつよう人ひとを必要ひつようとする作品さくひんにな
ったなと。

あつ 熱いですね。あと、^{きょく}曲によってはいろ
んな^{とびら}扉を開けてると思うんですよ。特
に4^{きょくめ}曲目の「Kiss twice, Kiss me
deadly」では、あの^{くん}将君がこんな^{かし}歌詞
を！……っていうくらいエロい^{ろせん}路線で。

将：沙我^{くん}君が、ランディー・ローズばり
に^{うた}歌えと^い言ってきたので—

沙我：いや、アクセル・ローズ（笑）
ランディー・ローズはギタリストですか
らね（笑）

沙我：^{おれ}俺はアクセル・ローズがやってる
あえぎ^{こえ}声に^{ちょうせん}挑戦するぐらいの^い意味で^い言
ったんですよ。将君はやってくれるだろ
うと思^{おも}って。「ハイカラなる^{きょく}輪舞曲」み
たいな^{きょく}曲もやってきたし。もちろん、
あれとは^{ちが}違う^{ふん}雰囲気^{いき}だけど。

将：これまでも“こういうのをやってみ
ました”っていう^{そくめん}側面^だは^{おも}出してたと思
うんですよ。でも、^{こんかい}今回は^{ぜんきょく}全曲^{むり}無理なく
^{じぶんたち}自分^{なか}達の中^{しょうじき}にある^{しよく}ルーツに^{しよく}正直^{にな}れ
たような^き気が^きします。自分^{じぶんたち}達^きが聴^きいてき
た^{おんがく}音楽^{ちか}に^{ちか}近^{ちか}くなってるというか。なので、
ただ^{おもしろ}面白い^{おもしろ}ことを^{きょく}やりたいから^{きょく}曲^ががバ
ラけたん^{たんじゆん}じゃなく、^{たんじゆん}単純^にに^きやりたいも
のを^{かん}やったら^{かん}バラけて^{かん}しまった^{かん}感じ^{です}です
ね。

なるほど、それは^{かん}感じ^{ます}ます。何か^{なに}ライブ
で^うこういう^うのが^う受^うけるから—^{かん}みたい^なな

^{してん}視点^かで^{あき}書いて^{あき}ないのは^{あき}明らか^にに^{あき}わかり^まま
すね。

将：まさに^{あき}そうです。

あと、オトナが^き聴くと“この^{きょく}曲、あの
アーティストの^きアレっぽいな”って^き聴こ
えて^きニヤリとするんだよね。

沙我：^{おれ}俺は^{ぎやく}逆に^{おも}そう^{ほう}思^{ほう}って^{ほう}もら^{ほう}った方
が^{うれ}嬉しい^{です}です。

マジ？ ^い言^{おも}っちゃ^{おも}いけ^{おも}ないと思^{おも}った！

沙我：むしろ^{おも}ニヤリ^{おも}として^{おも}もら^{おも}いたい^{おも}いで
す。だって^{おれ}俺^{いしき}ら^{いしき}が^{いしき}意識^{した}したのは、^{みんな}みんな
カッコ^いいい^{バンド}バンド^{だから}だから。

それ^き聞^きいて^きホッ^きとした^き（笑）。^だだ^きとし^きた
ら^{きょくめ}8^{かんぜん}曲目^{かんぜん}の「Drella」^{かんぜん}なんて^{かんぜん}完全^にに^{メタ}メタ
リ^カカ^{じゃ}じゃ^{ない}ない^{です}ですか。

虎：メタリカを……^{かん}ダウン^{かん}させ^{かん}た^{かん}感じ^{です}で
すね。

さぞや^{たいへん}ドラム^{たいへん}も^{たいへん}大^{たいへん}変^{たいへん}だ^{たいへん}った^{たいへん}ん^{たいへん}じ^{たいへん}ゃ^{たいへん}ない^かか
と思^{おも}います^がが。

Nao：そうですね。^{けっこう}結構^{けっこう}ツラ^{けっこう}か^{けっこう}った^{けっこう}です
（苦笑）。^{くしょう}体^{たいりよく}力^{げんかい}の^{ちようせん}限^{ちようせん}界^{ちようせん}に^{ちようせん}挑^{ちようせん}戦^{ちようせん}し^{ちようせん}まし^{ちようせん}た^{ちようせん}。

ただ、^{かずしょうせつ}ツライ^{かずしょうせつ}のは^{かずしょうせつ}数^{かずしょうせつ}小^{かずしょうせつ}節^{かずしょうせつ}なん^{かずしょうせつ}です^{かずしょうせつ}よ。

そこに^{ぜんしんけい}全^と神^と経^とを^と研^とぎ^と澄^とます^とって^とい^とう^と。

^{じぶん}自^{うで}分^みの^{たた}腕^{たた}を^{たた}見^{たた}なが^{たた}ら^{たた}叩^{たた}くと、^{けいれん}もう^{けいれん}痙^{けいれん}攣^{けいれん}し
てる^{けいれん}みたい^{けいれん}です^{けいれん}から。

^{からだ}体^は張^はって^はます^はね。

Nao：^は張^はって^はます^はよ！ ^{せなか}おかげ^{せなか}で^{せなか}背^{せなか}中^{せなか}を
^{いた}痛^{いた}め^{いた}した。でも、^{それ}それ^{それ}ぐ^{それ}ら^{それ}い^{それ}ス^{それ}キ^{それ}ル^{それ}と^{それ}レ
ベル^{もと}を^{もと}求^{もと}め^{もと}られ^{もと}て^{もと}て。だから^{じかん}時^{じかん}間^{じかん}の^{ゆる}許^{ゆる}す

かぎ 限りスタジオにいて、はじめて からだ れんしゅう
量 についていけない かんかく あじ 感覚を味わいまし

た (苦笑)

まんしんそうい 満身創痍ですね。ギターに かん 関しても、こ
の 先 どんどん プレイスタイルが ひろ がって
いき そうな 予感 が します けど。

虎：まだまだこれからです。

ヒロト：今回はギターを 弾く ことに
しゅうちゅう 集中 できた んで、いろいろ 出来 ました
よ。

じゅんすい す おんがくようそ だ かん
純粋に好きな音楽要素が 出せた って 感
じが します よね。

虎：ある程度意識しても個性は 出る が な
って。

これは、アルバムを 掲げた ツアー が どう
なる のか、非常に 楽しみ な 気が します ね。
たぶん、お客さんの ノリ も 変わって くる
んじゃない かな。特に 7 曲目の 「www.」
って、みんなに 歌って 欲しい 楽曲 だし。

沙我：それはイメージしました。歌って
くれ！

バラードは 歌う けど、アッパーな 曲 で
歌う 習慣 が 日本 に 定着 して ない 気が する
んで。

将：このアルバムには 歌って 欲しい 歌詞
が いっぱい ある んです よ。

ヒロト：何ていうか…… 日本的な 歌い方
じゃなく、もっと 大きな ノリ で 一緒に
歌って 欲しい です。

さいご 最後に アルバムの オススメ ポイント を、
それぞれに きいて いて いる かな。

虎：俺は 1 曲目の 「the beautiful name」
と 最後の 「Waterfall」。最初と 最後 を
聴いたら、途中も 聴きたく なる かな と。
全部 聴いて 欲しい だけ に ね。

沙我：俺ら 古風な バンド なんで、曲 と
曲 の つなぎ にも すごく こだわ ってる ん
です よ。今の 時代 と 合 っていない かも しれ
ない けど、だから こそ、この アルバム は
ぜひ 圧縮 された ダウンロード じゃなく、
盤で 聴いて 欲しい です。

ヒロト：僕は 1、2、3 曲目の 流れ です
ね。ライブ だろう！ って 感じ じゃない だ
すか。あと、こういう 音 を 出 している バ
ンド って、今の J-POP シーン には ない
と思う んです よ。単純に サビ が くる
だけ じゃない、もっと 大きな 流れ を 聴
いて 欲しい です。

将：俺、『Alpha』を 作った 頃の 自分 の
歌詞 を 読み返 したら、思春期 の 時 に 比べ
て 普通 にな ってる な って 感じて。そう
い う のを 壊 した くて、アニメ と か よく 見 て
た んです。

そっちに きました か (笑)。

将：突飛な 表現 が ナチュラル に 出 て くる
ように 自分 を バージョン アップ し よう
と 思って。それで 頭の ネジ を は ず した

結果、2曲目の「百花繚乱」みたいな歌詞になったりしたんで、その辺を聴いて欲しいです。

Nao：今回、ここにきて俺のドラムプレイは、高校男子の性欲ばりに何かを求めている……という。

……リアクションに困りますな（苦笑）。

Nao：これからはエロかしこカワイイ系で！

えーと（苦笑）。09年にはアルバム・ツアーもあるはずですからね。こちらも気になりますけど。

ヒロト：いいアルバムが出来たあとのバンドのツアーって、すごいものになると思うんですよ。バンドはやっぱりライブありきだし、ライブかあって曲が生まれて、そこから自分達がスケールアップできるアルバムができたから、ライブでも大きくなったアリス九號.が見せられると思います。

将：アルバムの曲は、このCD以上にカッコいいライブ・アレンジしてお披露目する……と、沙我君が言ってます！

沙我：そうですよ。これは“みんなのうた”なんです。お客さんの中にも、よく“隣の人が歌っててウザかった”なんて人がいるけど、それは違うと。歌うことは何も悪くない！

そのためにはアルバムを聴き込むべしですね！ 楽しみにしてます。